

障害児の性教育を考える

—— 性的自立を目指して ——

養護教諭 小林 康子

1. はじめに

現在では、性教育といえば人間の性（Sexuality）にかかわる教育として考えられているが、性教育は全人教育であって、性器教育でもなければ性の知識教育でもない。性は障害児にとっても、どのように大人になっていくかという「一人ひとりの生き方」に関わる問題である。性には、生理的側面・心理的側面・社会的側面（特に人間関係）があるが、障害児（特に、知的障害者）の性の生理的発達、健全児とほとんど変わらないといえる。しかし、一般的に、障害児の性教育はややもすると生徒指導的立場から性の問題行動を回避する手段として扱われがちで、「性＝生」という面の理解が薄いように感じられる。その場かぎりの対症的指導は禁止事項の積み重ねであって系統性がなく、子どもたちは自分の「性」と「生」を、自分のこととして捕らえることが難しい。

様々な性の問題が、性教育の必要性を訴えている子どもたちからのサインと考えるならば、子どもたちの人格形成や社会的自立をはかる上で、性の自立を抜きにしては考えられない。性教育は、コミュニケーションそのものであるため、教育課程に位置づけつつ生活全体で指導していく必要があると確信する。

2. 本校の性教育の指導目標

児童生徒に対して、性に関する基本的な知識を身につけさせ、健全な社会生活を営む能力と態度を養う。

(1) 各学部の目標

	小学部	中学部	高等部
目標	1. 清潔に関する望ましい習慣を身につける。 2. 羞恥心を養う。 3. 男女仲良くすることができる。	1. からだや衣服を清潔にできる態度や習慣を身につける。 2. 体の成長に気づき、自分らしい生活の仕方を知る。 3. 男女協力ができる。 4. 生命の尊さを知ることができる。	1. からだや衣服を清潔にできる態度や習慣を身につける。 2. 体の成長に気づき、性差に基づいた生活の仕方を知る。 3. 男女交際のエチケットやマナーを身につけ、思いやりの心を持つ。 4. 生命誕生のしくみや生命の尊さを知り、命を大切にしようとする。

性を生と捉える基本的な考えであるが故に、指導内容は健全児の性教育の内容と変わらない。しかし、知的障害児の場合には、身体の発達と知的な面の発達のアンバランスが顕著であること、系統的な思考が苦手である等の実態を踏まえ、発達段階や障害の程度に応じた具体的な指導を行う必要がある。

3. 指導の実践例（M子の個別指導）

卒業を目前にした高3のM子は、冬休みに性体験をしたが、本人はそのこと事態の意味は分からなくても、母親や姉に言うてはいけないことだという漠然とした罪悪感を持っていた。M子は、中学部の頃から異性を意識した素ぶりが見られ、異性への関心が高い。また、卒業後は授産施設に入所することから、卒業までの短期間で自分のからだを大切にする態度を養う必要があるため、放課後を利用して、性教育の個別プログラムを作成し、担任と養護教諭で継続指導を行った。

(1) プロフィール

昭和49年7月生まれ、7人家族4人兄弟の2子（精神発達遅滞 IQ41）

兄、姉、妹に疎外される場面が多く、家庭的には恵まれていないが、母親には強い態度で接し、母親の言うことは殆ど聞かない。しかし、学校生活では、下級生の世話や、児童生徒会の活動にも積極的に参加し明るく元気に過ごしている。

(2) 指導のねらい

自分のからだを大切に、「NO」といえる判断力を持ち、自分の行動について報告・相談ができる能力を身につけさせる。

(3) 指導時間および期間

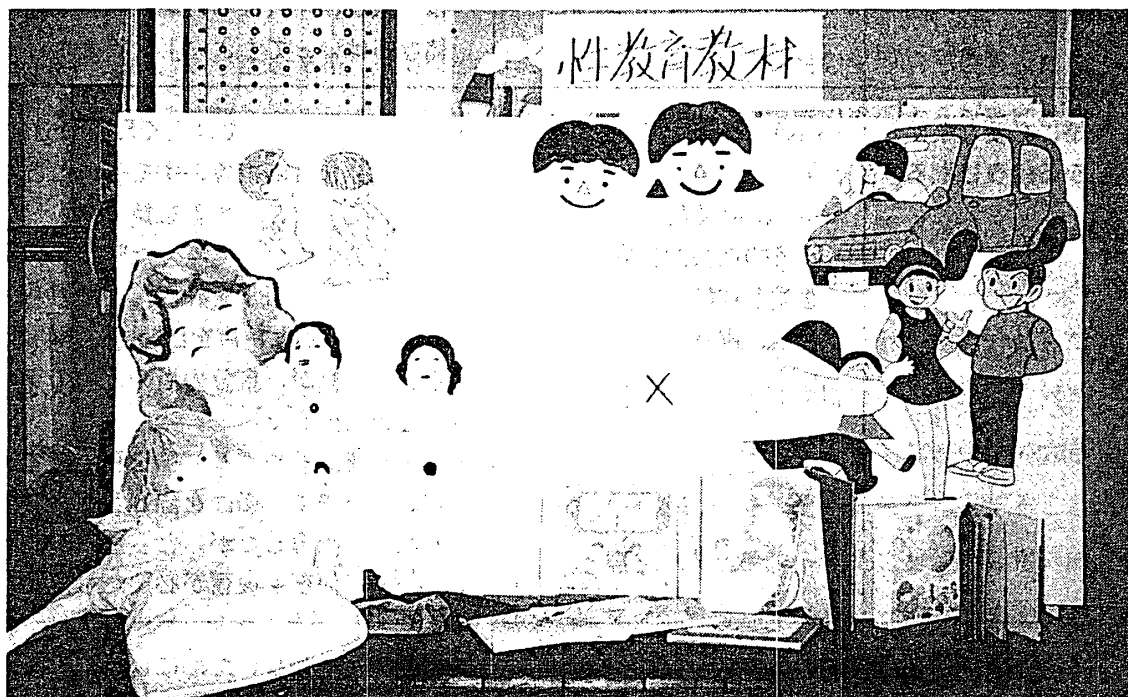
指導期間 平成4年2月～3月の約1か月

指導時間 特設時間 3時間

放課後下校までの時間20分間を週3～4回

(4) 使用教材

プリント ペープサート 性教育人形 絵本



性教育の教材

(5) 指導内容とM子の反応

単元	指導の目標	指導内容	M子の反応
生命の誕生	生命誕生の仕組みがわかるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・二次性徴 ・生殖器のしくみと働き ・卵巣（卵子）・排卵 ・精巣（精子）・射精 ・妊娠 ・胎児の成長 ・赤ちゃん 	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元は知識を覚えることばかりで記憶力、理解力が低いM子にとって難しく、理解するのに時間がかかった。 ・毎時間復習だけで終わることも多かったが、5～6時間かけるとだいたい理解ができ、自分の言葉で話せるようになってきた。 ・ときどき復習していかなければならないが、この単元をクリアすると、後の単元は割合に理解しやすかった。
男女交際	社会に出てからの望ましい男女交際のあり方を理解し行動できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな人 ・社会に出てからの望ましい男女交際のあり方 家の人に話す 時間・約束を守る 責任ある行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な場面や行動を想定し、ロールプレイを取り入れて考えさせた。 ・答えるたびに「なぜ」「どうして」を繰り返し使うことによって、M子の心の中でも自問自答が繰り返えされ、最後に自分の言葉が出てくるようになった。 ・自分で答えた言葉に自信がないため、しっかりほめていくことが本人の自信につながり、それが学習の意欲につながっていった。 ・学習成果として、後輩の男子から家に遊びに来ないかと誘いがあったが、「家には一人か、一人なら行かない、友達と一緒にならばいつでもよい」と答えている。
将来の家庭生活	結婚に必要な条件がわかるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚に必要な条件 ・年齢 ・精神的身体的発達 ・経済的社会的自立 ・恋愛と結婚 ・妊娠と避妊 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的自立については良く理解ができた。M子は今までの指導の中でも、ことお金についてはすごく執着を持った。 ・恋愛と結婚について考えた時、自分が好きでも相手がM子を好きだとは限らないことを教えると、声を出して泣き始めた。自分の行動が、自分のものとして実感したのと感じた。 ・ロールプレイやプリントを利用して実際に起こりやすい場面を想定して、考えさせながら指導したが、とっさの判断が難しい面、何度も復習が必要だった。
	性的被害や誘拐に合わないために、どん	<ul style="list-style-type: none"> ・性的被害から身を守る方法はっきり断る 	<ul style="list-style-type: none"> ・性的被害に遭わないために、日頃の生活をどう過ごすか、本人の性格も手伝って男

性的被害と誘拐防止	なことに気をつけるのかを知り行動できるようにする。	その場から逃げる 助けを求める ・性被害に遭わないためにどう過ごしたら良いのか 身だしなみ 言動 マナー ・知らない人との接し方	女の区別なく、なれなれしい言葉や態度は、指導するのに難しい。 ・いつも誰かがきちんと管理してくれる環境が必要になる。
-----------	---------------------------	--	---

※学習した内容を家庭に連絡する。

学習ノートを通して、母親とM子間のコミュニケーション関係をよりよくすると共に、M子自身が分かったこと分からないことを復習する習慣化を図った。また、記録してくることで、学習の徹底と評価をする。

4. 卒業後のM子

授産施設に入所してがんばっているが、工作中でも口紅をつけたり、男性の所生に馴れ馴れしいしぐさをする等、本人の言動はややもすればトラブルのもとになりがちで、指導員の方によく注意されていると聞く。また、話しやすい指導員に「のどが痛い、おなかが痛い。」等と訴えかけ、仕事をサボる問題行動も見られる。授産施設に入所していれば、M子の言動について常に観察指導が行われ、性的なトラブルであっても大きな問題にならずに解決されるであろう。しかし、M子自身の自己抑制力を高め、問題行動をおこさないようにすることもアフターケアの重要なことの一つである。

5. 終わりに

知的障害児が、高等部を卒業して社会生活に入っていく年齢は、性の生理的発達のほぼ成熟期にあたる。また、性への関心が高まる時期でもある。健常者とともに地域で生活するためには、性の心理的側面・社会的側面の指導を、本人の理解し得るかぎりの知識・情報を与え訓練していくことが、地域社会での人間関係をうまくする方法の一つではないだろうか。そして、障害児であろうと健常児であろうと、いやなものはいやと、自分の意思をはっきり言える人間になること、自分のことを相談できる勇気を育てることが、「性=生」と言えるのではないだろうか。障害を持った子どもたちが、自分自身の心とからだの主人公になり、人間らしい性行動ができるようになるためには、何をどのように、どのような教材を利用して指導したらよいのか、難しい課題である。また、今後の大きな課題として性教育の早期教育が挙げられる。即ち、知識を系統的に覚え、その知識を応用することが苦手である知的障害児にとって、理屈ではなく、自然に倫理観の基盤が作られることが性教育の成果をあげる上で重要であり、それには、幼い時の教育環境が大きく関わっていることは言うまでもない。

従って、児童生徒の家庭環境の実態把握をしっかり行い、個別の指導メニューを作成し、より具体的な指導を12年間一貫して継続指導を行うことが大切であると考えている。